

平成28年度 国際交流委員会 活動報告 1

## ハルリム大学医学部看護学科短期留学プログラムの実施

金子典代, 嶋田理佳, 山口知香枝  
益田美津美, 樋口倫代

看護学部では、韓国ハルリム大学医学部看護学科との交流プログラムの一環として短期留学プログラム（3回目）を実施し、9月5日から11日にかけて本学部の学生4名を派遣した。その概要を下記に報告する。

### I ハルリム大学医学部看護学科との学生間交流の実績

平成24年に初めて本学学生4名がハルリム大学を派遣する短期留学プログラムを実施して以降、この実績をもとに以後、大学間で隔年に派遣と受け入れを継続的に行ってきた。平成28年度は本学学生の3回目のハルリム大学への1週間の派遣となった。また本年度は国際交流委員メンバー2名（金子典代、山口知香枝）もプログラムの前半に参加した。

### II ハルリム大学との国際交流の目的

#### 1) 学部生間の国際交流

名古屋市立大学看護学部、ハルリム大学医学部看護学科相互の学生の短期交換留学を通じて、参加学生の国際的視野を広げ、海外の看護・保健・医療事情について見識を深め、異文化コミュニケーション能力を向上させることを目的としている。

#### 2) 教員間の国際交流

名古屋市立大学看護学部とハルリム大学医学部看護学科教員間の研究、学術面での交流を通じて、異文化コミュニケーション能力の向上、2大学間での国際交流の推進、共同研究の推進を目指す。

### III 本年度のハルリム大学留学プログラムの

#### 1) 参加学生の選出、渡航までの準備

平成27年度末より学生に広報を順次行った。公開説明会を4月21日に308教室にて実施した。応募者を5月から6月にかけて募集し、参加趣意書などの提出を応募書類として求めた。また選考については、グループ面接を行い、参加の目的や英語力、コミュニケーション能力の判断資料とした。最終的には面接点、学業成績とTOEICのスコアも参考に、4名の学生を選出し、教授会にて承認を得た。参加学生には、事前の説明会を複数回にわたり実施し、準備を行った。また大学生協のサポートを受け、航空チケットの手配、宿泊先の選定を行った。保険（加入を必須とする）は学生の自己負担であったが、現地宿泊費、渡航費については名古屋市立大学後援会より金銭面支援を受けた。これらの後援会の支援についての学術課国際交流係より一連の事務作業についてバックアップを受けた。渡航までの一連のスケジュールは表1のとおりである。ハルリム大学側では、Eun-Jung

表1 『平成28年度ハルリム大学国際交流』学生選考・準備スケジュール

内 容	実 施 日
プログラム説明会の実施	4/21
募集要項の配布、参加学生の募集	6/3 申し込み締めきり
面接の実施	6/15
学部教授会にて選考結果を報告	7/5
参加学生への結果通知と説明会 以後定期的に準備会を開催する	7/6以降
ハルリム大学側に選考学生について情報共有、プログラムスケジュールの共有を行う	7月から8月末
航空券、宿泊先の選定について大学生協、参加学生と打ち合わせ	8月中旬に予約を完了
ハルリム大学で実施する日本の看護事情、名古屋市立大学看護学部の教育・実習に関するプレゼンテーションの準備	7月から8月末
渡航の行程表や注意点、渡航先での連絡先一覧、緊急連絡網を完成させ、学生(+保護者分)、教員、事務室で共有する。	8月から出発前
ハルリム大学側へ連絡し最終調整	8月から出発前
最終説明会の実施	9月2日

Kim教授が今回のプログラムのコーディネーターを務め、本学教員と連絡を取り合った。また昨年度本学に留学したハルリム大学の学生を含め、多くのハルリム大学のボランティア学生が今回のプログラムにおいて、学生の生活面、通訳などを担った。

## 2) ハルリム大学でのプログラムの実際(表2)

出発日は中部国際空港に7:30に集合し、予定通りインチョン国際空港に到着した。教員の引率のもと春川市に高速バスで移動し、滞在先のホテルに到着した。2日目はオリエンテーション、講義への参加、3日目は講義の聴講と演習への参加、4日目は本学学生による基礎看護学の講義内での60分にわたるプレゼンテーションの実施、ソウル市内へ移動した。5日目はソウル市内ハルリム大学実習関連施設の病院を訪問し、産婦人科、小児科病棟、ICU見学をした。看護部長および救急部看護師長の案内で、病院内の見学を行った。土曜日はハルリム大学の学生と交流し、ソウル市内の見学を行い、一週間の留学プログラムを無事に終了した。9月5日～7日までは金子委員、山口委員が同行した。

## 3) 学生のプログラムによる学び、全体的な評価、

参加学生全員が思っていた以上に学びが大きかったと評価していた。韓国の学生の英語のコミュニケーション能力の高さ、学生からの教員への積極的な質問する姿勢、1クラスの学生人数が日本よりも少ないこと、能動的に講義に臨む姿勢など多くの点で日本と韓国の違いを感じ取っていた。より詳細な学びは資料2に記す。

また終了後、プログラムの長さ、事前の情報提供、留学先での安全、留学先での現地学生との交流の満足度について尋ねるアンケートを実施した。プログラム参加前の情報提供以外については、全員は非常に高い満足度を示していた。

## 4) 終了後の報告会の実施

平成26年11月9日に12時15分から13時まで、参加学生4名による短期留学プログラムの報告会を行った。学部2年生60名程度、学術課国際交流担当職員、学部教員数名の参加があった。今後プログラムの参加を希望する学生から、費用面、安全面、準備に関する質問が寄せられた。

## 5) ハルリム大学医学部看護学科より教員の招聘、

### 平成29年度以降の予定の調整

ハルリム大学より平成28年8月16日から18日にかけて、学生間交流プログラムの主のコーディネーターであったShin-Jeong Kim教授を招聘し、これまでの学生間交

流の振り返り、共同研究の打ち合わせを行った。一度双方の大学教員間で開始に至った共同研究は、科学研究費などの外部資金を獲得して継続・発展させていくことを確認した。今後の他の教員間の共同研究のあり方については、市大教員とハルリム大学の教員間で相互に情報交換を行い、今後の両大学間教員間での具体的な共同研究と発展できるテーマを探し、ニーズマッチングを継続していくことを確認した。

## 資料1. 参加学生の感想

(3年生:武田綾花、4年生:江崎美穂、久保明日香、後藤千枝の感想より抜粋)

この度、私たちは9月5日から9月11日の一週間、韓国のHallym大学において授業の参加と日本の看護についての紹介、またHeart Hospitalにて病棟実習を行いました。今回の留学の目的は、韓国における看護教育、また看護師の働き方や置かれている環境、実際の看護体制について学び、国際的視野を広げることです。

Hallym大学においては、実際に英語で看護の講義を行っている様子を見て、実際にその講義に参加する事ができました。講義では、韓国語も併用していましたが、学生の多くが英語での講義を理解し、質問しており、日本よりも英語を使用する機会が多くある事を学び、また学生達の英語力の高さに驚きました。また、救急時の対応の実習を行う部屋が専用で用意されており、患者人形の容体の変化をモニター等で把握しながら、自分で必要な器材を判断するなど、水準の高い実際的な演習が行われている事も学びました。

Heart Hospitalでは、韓国と日本における看護の違いを学ぶ事ができました。特に、韓国では家族が患者に付き添い、身の回りの世話をを行うこと、家族がいない場合にも看病人という人を雇い世話をしてもらうことを知り、日本の看護師のように清拭などを行うことはほとんどないことを知り驚きました。その他日本における看護助手のような方もおり、看護師の業務は看護師でなければできない専門的なことに絞られている印象を受けました。

韓国の方と関わった中で印象的なのは、先輩と後輩という上下関係がはっきり目に見えることでした。非常に上下関係を厳格に守ろうとしている姿勢が感じられ、目上の人を敬う文化が日本以上に根付いていると分かりました。また、韓国の方は非常に献身的で親切であり、今回の短期留学プログラムでお世話になった学生や先生、看護師の方は私たちが1週間のプログラムを通して様々なことが学べるよう、配慮してくださった。「何か縁があって出会えるため、人との関わりを大切にしたい」という考えを持つ学生もおり、人との関わりを大切に思

表2 現地でのプログラム内容の詳細

	AM	PM
9/5 ( Mon )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 9:25 Leave Nagoya (KE752)</li> <li>• Arrive at Incheon International Airport (AM 11:25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Check-in at the ChunCheon tourist Hotel in Chuncheon (30-1, Nagwon-dong, Gangwon-do, 200-100)</li> </ul>
Guide		
9/6 ( Tue )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>10am</b> Meeting with Dean of Hallym Nursing division</li> <li>• Hallym university tour</li> <li>• Lunch: school cafeteria</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>2-3pm</b> Class participation (Understanding of Japanese Language [일본어학의 이해 (화 6)], 인문관 4504, Pf. Saito Akemi )</li> <li>• <b>4pm</b> Exchange with nursing students</li> <li>• <b>5-9pm</b> Chuncheon tour with Korean students</li> </ul>
Guide	2 <sup>nd</sup> grade, Kim HJ, Kwak DY, Kil, HY (김혜진, 콧다연, 길희연)	(2 학년; 배승희, 고정인, 최효주(이상 학생회), 김혜진, 콧다연, 길희연)
9/7 (Wed)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>9-11am</b> Class participation (Basic Nursing Science, 7323, Pf. Kim, Hyunjung)</li> <li>• <b>11am</b> Presentation of "Nursing in Japan " "Aging in Japan" (Introduction to Nursing Class, 7327)</li> <li>• Lunch: school cafeteria</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• To Seoul</li> <li>• Check-in at the Vision Hotel in Seoul.</li> <li>• Vision Hotel (No. 2, Dosun-Dong, Sungdo ng-Gu, Seoul, 133-040, Korea. Phone: 8 2-2-22962244)</li> </ul>
Guide	Kim HY, Kwak DY, Kil, HY	Students or Pf. Kim, Eunjung
9/8 (Thu)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>10am-</b> Clinical Placement- Hallym Sacred Heart Hospital in Pyeongchon <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Orientation from Nursing admin.</li> </ul> </li> <li>• Lunch: hospital cafeteria</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>- 4pm</b> Clinical Placement- Hallym Sacred Heart Hospital</li> </ul>
Guide	Senior, Hee Yeon Moon, Sun Young Park (문희연, 박선영)	Senior, Moon or Park
9/9 (Fri)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>10am-</b> Clinical Placement- Hallym Sacred Heart Hospital</li> <li>• Lunch: hospital cafeteria</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>- 4pm</b> Clinical Placement- Hallym Sacred Heart Hospital</li> </ul>
9/10 (Sat)	Seoul Tour	Seoul Tour
Guide	2nd grade, Kim HJ, Kwak DY, Kil, HY	
9/11 (Sun)		Students leave Incheon Airport at 19:05. Korean Air 751.

う気持ちが親切さにつながっているのではないかと感じた。韓国はキリスト教を信仰している人も多く、病院実習でもシスターが病室を訪れる様子も見られ、霊的な部分に宗教が大きく関係していることが考えられました。

プログラムを通して、実際に韓国の大学や病院を見学できたことは期待以上に貴重な経験となった。日本と韓国の英語力の差だけでなく、講義での積極的な姿勢、大学の学習支援体制などの違いも学ぶことができ、自身の学習に対する姿勢を考え直し、実践的な看護能力を身につける必要性を感じる機会となった。日本では、学業も仕事も日本語のみで行う事ができますが、それは長所でもあり、英語を学ぶ機会が乏しいという意味では短所でもあると感じました。これからは日本にもより多くの在日外国人の方や旅行者が増え、多くの文化・言語に関わっていくこととなると考えます。その上で、医療の最前線に立つ看護師が他国の看護の実際を知り、その成果を日本に還元していく事は、これからの日本における看護、また日本の看護師が世界で活躍していくためにも必要な事であると考えました。



出発前セントレア国際空港にて



看護学部棟にある実習室



ソウル市内ハルリム大学附属病院実習





現地での学生間交流の一コマ



基礎看護学の講義でのプレゼンテーション



ソウル市内ハルリム大学附属病院看護部スタッフと